

## 中央教育審議会大学分科会（第 176 回）における主な意見 （令和 5 年 12 月 22 日）

### （１）2040 年以降の我が国の将来を見据えた高等教育が目指すべき姿

#### （高等教育の目指すべき姿）

- ・ 地方におけるニーズに合った大学の役割といったものを考えていく必要があるのではないか。産官学が地域と結びついて、そこにある大学がどういう役割を果たせていけるのかといった観点からの論議も考えてもよい。
- ・ 地方にあるから、地方の課題解決のために学生を集めて地方に就職させるという視野ではなく、日本全体として発展させるために何がこの大学の特色かといことを考えることも大事。

### （２）今後の高等教育全体の適正な規模を視野に入れた地域における質の高い高等教育へのアクセス確保の在り方

#### （規模について）

- ・ 日本の問題は、東京一極集中の問題が地方を非常に弱らせているという問題が大きい。地域で分けるならば、東京圏と大都市圏、それ以外の地方というのは 3 段階で分けないといけないのではないか。
- ・ 東京周辺の県、あるいは東京都内の小規模大学、短期大学でも、建学の精神を提示し、3 つのポリシーもしっかりとしているところほど、あまり理解がないまま定員充足率がどんどん減って行って、厳しい目に遭っている。
- ・ 諮問がだされ、私立大学関係者は、選択とこれまで有しているリソースをどう集中していくのかということ等を真剣に考え出している。
- ・ 小都市では一つの私立大学がその地域の地方公務員や経営者を支えている例もある。ただ単に定員充足率が芳しくないから募集停止だ、その機能をやめてしまうという結論に行くことを心配している。

### （３）国公私の設置者別等の役割分担の在り方

- ・ まずは機関別の役割を明確にした後、それぞれの事情というものを把握した上で、機関別の在り方を考えるべきではないか。また、規模別の議論も必要。